

当院では、患者さんに安心して受診いただけるよう、コロナウイルス感染症に対する感染症対策には万全を期しております。発熱（37.1度以上）、咳、咽頭痛、倦怠感（ふだんと同じ行動でもする気が起きない、だるいなど）、嗅覚障害、味覚障害がある患者さんは、必ず受診前に電話して、診察予約をお取りください。発熱など、上記症状のある患者様は、一般の患者様と入口、動線を別にして、特別の診察室、待合室で対応しております。皆様のご協力をお願いいたします。その他、当院の詳細な感染症対策については下記をご覧ください。

1 正面玄関への体温サーモグラフィー導入

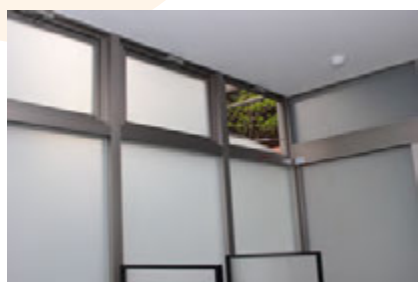
当院では2020年7月31日に正面玄関にサーモグラフィー（AIサーマルカメラ）を設置いたしました。入り口で人物を認識しカメラで顔写真を撮影。数秒で体温計測が出来ます。

設定された体温（季節により変動）以上の患者さんを感じると警告音（ブザー）が鳴り、個別に対応させていただきます。



2 一般受診と発熱症状の患者の入口を分けています

当院では一般の診察でご来院される患者さんと、発熱等の症状（37.1度以上の発熱、咳、呼吸苦、咽頭痛、倦怠感（ふだんと同じ行動でもする気が起きない、だるいなど）、嗅覚障害、味覚障害）がある患者さんの入口を別々に分けて対応しております。発熱症状の患者さんは入口で動線を分けており、特別の診察室に誘導させて頂くことで、院内感染を防止しております。



発熱外来診察室には専用の胸部X線撮影システムと発熱外来担当診療医と顔の見える形でのオンライン診療を取り入れています。発熱外来待合室は十分な換気が保てるよう配慮した運営をしております。

3 入口の手指消毒

当院にご来院の患者さんには入口で手指消毒液をご用意しております。プッシュ式は車椅子の方でもご利用しやすい高さに設置（2台）さらに足踏み式手指消毒も設置しており（1台）玄関口で患者さん同士が混雑しないよう複数設置しております。



4 「不織布」マスクでのご来院のお願い

■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド	
		不織布 	布マスク 	ウレタン 			
	吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50% ^{※2}	80%	90% ^{※2}
	吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65 ^{※2}	60-70% ^{※2}	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

※2 豊橋技術科学大学による実験値

フェイスシールドはマスクと併用で使いましょう
マウスシールドはほぼ効果がないようです。
マスクも種類によって効果が違います。

当院へご受診の患者さんへ「不織布」でのマスクでのご来院して頂けるよう掲示物を使ってご案内しております。掲示物では、ウレタンマスク・布マスク・マウスシールドなどのマスクと不織布のマスクでは効果がどれだけ違うのか、掲示板でご理解頂けるようにしております。また、院内では不織布マスクの自動販売機も設置しており購入することも可能です。

5 職員のフェイスシールド・及びマスクの着用

当院では直接患者さんと接する機会がある職員全員にフェイスシールドの着用を義務付けております。また、再来受付・総合受付・会計ではパネルを設置しております。職員は不織布マスク着用の義務もあるので、マスクとフェイスシールドで患者さんのお声が聞き取りにくい場面もあるかと思いますが、徹底的に感染対策に取り組むことにより患者さんへ安心感をもたらすことが出来ると考えておりますので、どうかご理解頂けますようお願い申し上げます。



待合室では十分なディスタンスが取れるような椅子の配置と、付き添いの方以外は、間隔を空けてのご利用にご協力頂く旨のポスター周知などで、待合患者さん同士が密になるのを防止しています。また全館には24時間換気空調システムを設置しており、安全と適切な温度調節が保てる範囲内で、窓やドアを開け、診察室など常時換気しております。

6 自動受付機・自動精算機の設置

現在、受付と会計には自動受付機と自動精算機を設置しております。こちらをご利用いただくことで、職員と患者さんが対面で接することがなくなり、感染のリスクを減らすことができます。自動受付機と自動精算機はタッチパネル式となっておりますので、ご利用後は手指消毒にご協力ください。

